洋上青年大学体験記 ①

洋上大学に参加して

鈴木章弘

六月十二日から十六日にかけて県教委主催の洋上青年教養大学が開催された。

今回で、この研修も十一回目を迎え十回を一つの区切りとして今回からまた新たにスタートするという意味で行われた。

この研修は、中堅リーダーを対象としている。

参加人員は約二百名、光町からは男二人と女一人、計三名が参加した。

コースは、千葉港から和歌山、神戸（ポートピア）へ、神戸港から鳥羽、大島、千葉というコースであった。

千葉港へは、皆、朝早くから起き、千葉県内の各市町村から集まった。いよいよ出発の時になるとみんな用意してあった紙テープを投げ見送りの人達と別れた。

なのに我々にはテープを投げる相手がいませんでした。光町青年クラブからは、だれも見送りに来ません。たぶん仕事の都合で来られなかったのでしょう。

しかたがないので知らない人達に淋しく手をふりました。

そんなことも忘れ昼食の後、早速研修に入りました。

研修は、運営とレクリエーションの二つに分かて行われました。

運営はレクに比べると講義と討議ばかりで頭のいたくなるようなことが多かった。

このような研修が毎夜九時過ぎまで続いたわけで、皆、船の揺れで気分が悪いのと眠いのを我慢して来たが中にはダウンした人もいました……。

二日目に和歌山県の紀比青年の家へ行き地元青年団との交歓会があり、その中で班別の交歓会があった時にお互いの青年団の今かかえている問題は何かという事が上げられ、話しを聞くと和歌山県も千葉県の青年団も同じ様なことを言っていた。

これは、お互い真剣になって考えて行かなければならない事だと思った。

地元青年団との交換会も楽しく終り、この日始めて風呂へ入れた。なにしろ船には風呂が付いてないもので丘へ上がった時にしか入れないのであります。

次の朝、和歌山港を出てみんなが期待していた神戸（ポートピア会場）へ向いました。

やっとここで解放的な気分になり会場を見て回った。中には見学の先々でコンパニオンと写真を写すことに熱中している人もいたりして楽しく過ごすことが出来た。

神戸港を出てこの日の夜は船がかなり揺れたが三日も乗っていると皆、慣れたらしく酔った人は少なかったようだった。

四日目に入りこの日は今まで話し合いでまとめた事を発表し合いその後鳥羽へ降り班別に好きな所へ行った。もうこのころになると班もまとまりが出て来て良い雰囲気であった。

この日の夜は、最後の夜ということで班ごとにおそくまで語り合ったり、歌ったり、ダンスをしたり印象深い夜であった。

最後の日は、大島へ寄り二回目の風呂へ入り三原山をハイキングし千葉港へ帰って来た。

以上日程を追ってこまごまと書きましたが、この研修に参加して得た成果は、まず青年団活動とはこういうものであるという事が認識出来た事ともう一つは多くのすばらしい仲間が出来たことです。

やはり若い内は「井の中の蛙」ではなくどんどん外へ出て人と接触し視野を広めて行かなければならないと思いました。

船を降りた後、それぞれビールで乾杯し近くまた会う約束をし涙、涙で別れた（中には松田聖子ならぬ者もいた）。

来年はもっと女子の参加を期待いたします。

最後に日頃、人と接触することの少ない私達にこのようなふれあいの場を設けて下さった方々と色々とお世話になった皆さんに感謝いたします。

洋上大学に参加して

吉田信也

私の参加した洋上大学も、今年で十一回を迎え、このような有意義な事業に参加できたことをとてもうれしく思います。

参加者全員が各班に分けられ、船上での実習、講義、レクリエーション活動、寄港地での見学、交歓会等々、そのほとんどが班別行動となっていました。

千葉港を出航する時は、小雨のぱらつく中、不安と期待でいっぱいでしたが、船に乗る二週間前に事前研修を行い、同じ班の人たちと顔見知りになっていたので話し合いなども、かた苦しさもなく、うちとけあったなごやかな雰囲気で進みました。

班は十五人編成で、班内の団結力はとても強く仲間意識もかなりでき洋上大学が終わってからも毎年会おうというような話にもなりました。

天候は、あいにく五日間のうち四日間も雨が降ったり曇ったりといったぐあいでしたが、最後の日は良く晴れ上がり船上から見る海がとても青く、潮風が気持ちよかったです。

船内では、青年団活動の講義があり、それをもとに班別に討議しました。

どの地域でも青年団活動については、いろいろな悩みがあるようで活発な意見が出されました。

私は、この研修に参加してとても良い経験になったと思います。

いろいろな地域の青年達と知り合え、悩みを語りあい交流を深めることができました。

千葉港で別れる時は、五日間の研修期間だったのに、むかし